

Q：一体型の小中一貫校を建て、青写真を示してはどうか

A：一体校を造るという部分まで熟していない。
中学校区をしっかりと組み立てたい。

益田吉博議員



認定こども園について

益田 認定こども園の今後の展望と進捗状況は。

あんしん福祉部長 「五條市立幼稚園・保育所のあり方」において、適正な集団規模として複数クラスを確保するため、公立の認定こども園を全市域で2から3箇所整備することが適切とされており、今後の展望としては、学校適正化による学校や跡地の利活用も視野に入れながら、教育委員会と連携し検討を進めたい。

益田 小学校、中学校の生徒が減ってきたから保育所・幼稚園を何とかしなくてはではなく、出生率が低い、保育所・幼稚園の子どもが少ない、そして小・中学校の子どもが減ってきた。その流れから、認定こども園を先に考えるべきだと思う。



学校適正化について

益田 新しいモデル校を建てて、ここで小中一貫教育をやるという姿勢を示さないで、うちの学校なくなったら寂しくなるという意見が出てくる。一体型の小中一貫校を建て、その横に認定こども園・学童を併設するという青写真を示さない

と納得しないのではないかと。理想的な適正化は一体校だと言うが、一体校を造るといふ部分まで熟していない。中学校区をしっかりと組み立てることからスタートをしたい。

益田 中学校区を確立したい、二つにまとめたというのとは分ける。それなら学校を建て、廃校になる学校はこういうふうに使おうと示さなければ説得力がない。

教育長 適正化の問題は、まち全体の部分の中で、まちづくりとして進めていくべきだと、それをするこ

によってまちが変わるといふことを前提に置いてやるべきだと考える。

益田 学校長寿命化で50年経った五條中学校・五條東中学校に投資するより、人にお金を投資した方がいいのではないかと。

教育長 もう一度しっかりとその辺は考えながら進めていきたい。その第一段階として、いったん中学校区を基本にしたものを作って、そして、次の方向に進めていきたいという思いで進めていかなければならないと思う。

益田 しっかりと青写真を持って説明会に臨まないで、市民は納得してくれないと、申し上げておく。

五條高等学校賀名生分校について

益田 今後の展望・見通しは。

教育部長 全国募集実施後、実習を近隣の農家や農業法

人などプロから指導、3・4年生では平日に就労活動を盛り込み、OJT^{※1}による技術習得ができることを特色にしたいと考えている。

産業環境部長 国は若者に夢を持ってもらえる農業を進めており、五條市も、賀名生分校の卒業生も含め、地域農業の担い手を育成し、移住・定住の促進を進め、中山間地の活性化を図れるよう、国・県と連携し進めてまいりたい。

益田 その子たちが賀名生分校を卒業して、五條市で農業を経営していくのは困難である。なぜ、できないか、ないことにお金を使うのか。**教育長** 大きく定員を割っている賀名生分校を何とか改革したい。そして地域の農業、五條市の農業振興につなげる農業学校として位置付けたいと考えている。



Q: 国道310号からのアプローチ道路の整備について

A: 南北道の道路整備を踏まえ、トータル的な考え方で今後とも進めてまいりたい。

宗部康寛議員



新庁舎建設計画について

宗部 周辺地区への周知及び現在の進捗状況について伺う。

市長公室長 本年9月に五條市自治連合会、10月に関係周辺自治会に説明会を行った。進捗状況は地質調査の発注手続き、基本設計及び実施設計発注の作業を進めている。

宗部 昨年9月の一般質問、そして今年3月の一般質問にも国道310号からのアプローチ道路整備の重要性を主張してきた。具体的な整備計画は未定で、西からのアプローチ道路は再整備可能な現市道の改良工事であると考えて、今後の計画性について伺う。

都市整備部長 新庁舎完成に向けて旧岡中線と岡口3号線を重点的に取り組む必要があると考える。

宗部 平成33年度の供用開始までに必要最低限のアプローチ道路の整備が不可欠

で、特に国道310号からのアプローチ道路としては、本町6号線から岡口6号線を直線で結ぶ計画を切に市長にお願いしたい。

3月の定例会で国道310号からのアプローチ道路の早期完成を求めると決議をした。再度、前向きな答弁を伺う。

副市長 ずっと御指摘、また決議いただいているが、国道310号からのアプローチ道路については、大変重要であることは十分認識している。現状拡幅・改修も含め、十分検討させていただきたい。

市長 総合的な判断をする中で優先順位を付けて、やるべき事をやっていく。そして、次のステップとして駅前開発をはじめ南北道の道路整備を踏まえ、トータルの新たな考え方で今後とも進めてまいりたい。

宗部 建物の構造と設備計画について伺う。



市長公室長 安全性を確保した構造であり、必要な設備については、市民のアンケート結果も参考にする。

宗部 現在の図書館は築39年経過しており、新庁舎建設計画に併設する考えがあるのか。

市長公室長 五條市まちづくり構想を踏まえ財政状況も鑑みながら、建替え時期及び場所については、今後考える。

宗部 図書館の併設においては、図書スペース、また多目的ホールとして休憩スペース等の確保も含め必要な機能だと思うので、充実した設備内容を望む。

市民会館の改修について

宗部 客席は395席あるが、催し事を開催する中で満席になる事が無いのであれば、座席が小さく前席とのスペースが狭いので、座席を少し減らしてでもスペースを広くし、安全点検も含め改修すべきではないか。

理事 座席幅は狭小で老朽化も重なり、御利用の皆様には御不便をお掛けしている。

座席更新の必要性は認識しているが、築45年が経過し、まずは耐震診断による施設全般の調査が必要と考えている。



(五條市市民会館)

Q: 適正化は急ぎすぎる。もっと意見を聞くべきではないか

A: 小さな単位の説明会を開催し、理解を得たいと考えている。

大谷龍雄議員



学校適正化基本計画素案の説明会において出された、保護者・関係者の意見を重視した計画案の再検討について

大谷 平成26年4月に学校適正化検討委員会を作り、7月に保護者対象のアンケートを行い、平成27年5月に教職員対象のアンケートを行い、平成28年2月にまとめられた答申を基に、学校適正化（素案）がまとめられているが、現小学校8校を4校に、現中学校5校を2校にする学校統廃合になっている。

地域説明会での皆さんの意見は、①スケジュールが急ぎすぎ。②少人数でもいい。③学校がなくなるとコミュニティの場がなくなり、人口動態も変わる。④人口を増やし子供を増やすことが先では。⑤文部科学省の言っている小中一貫教育による学力向上について数値がない。⑥平成29年度は1

名、平成30年度は4名の入学になる学校の保護者との話し合いの場を作ってほしい等です。

したがって、①急がず、保護者・関係者とよく話し合うこと。②子供と地域の両方を重視した学校の配置にすること。③人口減少防止対策を市長部局と共に急ぐこと。④来年、子供が減少する学校の保護者との話し合いを急ぐことが重要ではないか。

答申にある小学校では、1学年2クラス以上、中学校では、2から3クラスとする目標を小・中学校全てで早急に満たそうとしているが、無理があるのではないか。

また、国会の参議院文教科学委員会での参考人陳述では、3大学の3名の教授が小中一貫教育について疑問的見解を表明している。**教育部長** 学校適正化基本計画（素案）の地域説明会

においては、スケジュールが急ぎすぎる。もっと、意見を聞くべきなどの意見をいただいたので、小さな単位の説明会を開催し、理解を得たいと考えている。

来年度の入学予定者が複数名の学校では、保護者の就学にあたっての不安感をなくせるよう、気持ちに寄り添って最善の方法を検討していく。



以上の質問とともに、次の質問も行いました。

1. 子育て支援を基本とした人口減少防止対策について

①子育て支援に全力を上げ、人口増になっける自治体について

②五條市子育て支援と人口減少防止対策の現状について

③五條市の現状と必要性に基づく子育て支援と人口減少防止対策の充実について

2. シダーアリーナを始めとする上野公園の利用促進対策について

①必要な駐車場の確保について

②吉野川河川堤防の効果的な建設について

3. 地震に強い安全・便利な皆様に喜ばれる新庁舎の建設について

①耐震設計と耐震施工について

②体の不自由な方を始め全市民に便利な設計・施工について

③五條市内の木材産業及び業者が潤う発注について

④合併特例債の範囲内での建設について

総務文教常任委員会

12月定例会で本委員会に

五條市議会議員の議員報酬

等に関する条例の一部改正

五條市立民俗資料館に係る

指定管理者の指定、五條市

一般会計補正予算ほか計6

議案が付託され、審査の結

果、採決を行い可決されま

した。

委員会での質疑内容の一

部を抜粋してお知らせしま

す。

五條市立民俗資料館に係る指定管理者の指定について

委員 指定管理者の住所が五條市立民俗資料館の住所と同じ理由は。

答弁 街なみ環境整備事業により民俗資料館の整備が行われたときには、地域の方々に無償で管理していただいていたが、五條新町地区街なみ環境整備協議会から任意団体である天誅組保存会で管理をしてもらってはどうかということがあり、事務所を民俗資料館に置いた経緯があり現在に至っている。

委員 指定管理料及び選定方法は。

答弁 指定管理料は、年間264万4千円で、選定方法は、非公募で1者について五條市指定管理者候補選定委員会に諮り選定を行った。

委員 指定管理料の内訳は。

答弁 主には人件費であり、施設の警備や展示等を行って

いる。

委員 指定管理料は、年間264万4千円で、選定方法は、非公募で1者について五條市指定管理者候補選定委員会に諮り選定を行った。

委員 指定管理料の内訳は。

答弁 主には人件費であり、施設の警備や展示等を行って

いる。

委員 指定管理料は、年間264万4千円で、選定方法は、非公募で1者について五條市指定管理者候補選定委員会に諮り選定を行った。

委員 指定管理料の内訳は。

答弁 主には人件費であり、施設の警備や展示等を行って

いる。

平成28年度五條市一般会計補正予算(第3号)議定について

委員 し尿処理施設運転管理業務の内容は。

答弁 し尿の受入、助燃材・リンの回収、施設の運転管理等である。

委員 職員で当面は運転しているのか。

答弁 通常の運転はできるが、トラブル等への対応はメーカーのサポートがないと難しい。

委員 子供のための教育・保育施設型給付費の支給実績は。

答弁 あやの台のこども園になつみ台にお住まいの5歳児1名、3歳児3名の合計4名が利用されている。

委員 他所から五條市へ来てもらえる体制の構築は。

答弁 五條の施設に魅力がなかったということで、総点検し、今後の方策につなげたいと考えている。

委員 ごみ中継施設の場所は。

答弁 場所については、隣接する民家もなく、新ごみ焼却施設へのアクセスもよく、現施設からの距離も含めて市民の皆様が大きく利便性を損なうことはないと考えている。

五條市学校適正化基本計画の素案に対する決議

このたび、五條市教育委員会では、「五條市学校適正化検討委員会」からの答申を受け、子供たちの未来にとって、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造により良い教育環境の実現に向けて策定される「学校適正化基本計画」の素案を作成し、議員全員協議会で報告をいただいたところであります。

また、平成28年11月17日から11月30日にかけて、広く市民の皆様にご公表し、御意見をいただく場として、保護者や地域住民の皆様を対象とした説明会を実施されておりますが、その中でいただきました様々な御意見を踏まえ、最終的な「五條市学校適正化基本計画」を策定していくと聞いております。

考えるべき第1は「子供の教育」であります。子供たちが、未来をたくましく生き抜く力を付けていくためにも、より良い教育と環境が重要であると考えます。

よって、基本計画の策定にはこれまで説明会で出されました貴重な御意見、御提言を十分反映し、結論を急がず市民の皆様にご丁寧にご説明し、御理解と御協力が得られる「五條市学校適正化基本計画」の策定となりますことを強く望むものであります。

以上決議する。

平成28年12月19日

五條市議会

総務文教常任委員会

12

委員 市の特別職の改正について尋ねる。

答弁 財政状況の厳しい中なので特別職については改正をしない。ただし、一般職については、ラスパイレース指数が奈良県下の市の中でも最低であることから人事院勧告に準じて改正するものである。

委員 議員報酬については全国的にも高額であるためこの改正に反対である。

行政視察研修 in 多久市・鹿島市

総務文教常任委員会は、平成28年10月25日・26日の両日、行政視察研修を行いました。

まず、25日には佐賀県多久市を訪問し、小・中学校の学校適正化について研修を行いました。

翌26日には、佐賀県鹿島市を訪問し、鹿島市では、熊本地震への支援(活動内容)について研修を行いました。



今回の視察で学んだことを、今後の五條市の教育・防災を考える上での参考にしていきたいと考えております。